



地域コミュニティの絆

校長 伊藤 栄司

長い夏休みが終わり、学校に元気な声が戻ってきました。子どもたちの笑顔から、充実した日々を過ごしてきたことが伺えます。2学期は運動会や学芸会など大きな行事がたくさんあります。夏休み中に得た様々な体験や経験を活かし何事にもチャレンジしながら大きく成長できるよう教職員一同、指導していきます。

また、夏休み中には、4年生の保田臨海学校がありました。7月24日、25日、保田の海で海水浴をしたり、浜辺でビーチファイヤーをしたりと楽しい2日間を過ごしました。4年生にとっては、初めての宿泊学習でしたがお互いに協力し合い、頑張っている姿が印象的でした。親元を離れ、自分の力だけで乗り越えるたくまさを身に付けた夏でした。

各町会の夏祭り

7月19日の北神保町町会の夏祭りを皮切りに、多くの町会で夏祭りが開かれました。ほとんどの町会にご挨拶に伺ったのですが、どの町会も子どもたちの元気な声でいっぱいでした。

夏に祭りが多いのは理由があり、その昔、農業が中心だった頃は、夏になると台風や虫などによって大切に育ててきた農作物が根こそぎ飛ばされたり、傷つけられたりすることが多かったようです。そこで被害を防ぐために「風よけ」や「虫送り」を願って祭りが行われていました。また、昔は夏に疫病が多かったことから「疫病退散」や「厄除け」を願う祭りも行われました。

さらに、盆踊りもあります。お盆になると帰ってくる先祖の霊を迎え、もてなすことで亡くなられた方の冥福を祈り、感謝を伝える気持ちを伝えます。加えて、夏の祭りと言えば花火大会があります。隅田川の花火大会が日本で最初と言われ、八代将軍の徳川吉宗が流行り病で命を落とした方の魂を慰め、病気を流行らせる悪霊を追い払うことを願って花火を打ち上げたのが発祥といわれています。

地域の絆

「風よけ」や「厄除け」等、天災の影響を受けにくくなった現代社会において、夏祭りは地域の方々が子どもたちを大切に思う気持ちで溢れています。ほとんどの町会の祭りに「こども」の文字が入っているように、どこのお祭りに参加しても、子どもたちの賑やかな声と元気な笑顔でいっぱいでした。「子どもたちのために」との強い気持ちが、祭りに関わる人たちから感じられました。

また、一丸となって協力して準備・運営する姿に地域の強い絆を感じました。準備や運営に関わる人たちは、共に成功させようと思いを高め、確かなつながりで結束している様子が見られました。日頃より、強い絆で結ばれた町会の皆さんならではの行事と言えます。

参加する時の気持ち

ある町会の夏祭り、昔の教え子に会いました。露店の店番をしていたのですが、自分にも子どもができて町や子どもたちのために何かしたいとの気持ちで参加していると話してくれました。子どもの頃参加した祭りの思い出を今でも大切にしている様子でした。活発でどちらかという手のかかる子どもだったと記憶していますが、立派に成人して町会の手伝いをしている姿に胸が熱くなりました。

祭りに参加することは、地域の方々が込められた思いや願いを受け止め協力することに繋がります。そして、楽しかった思い出は、次の時代へつなげていくための一歩になります。今は、楽しく参加することが大切ですが、大きく成長した時、自分には何ができるのか、ふと思い出して行動できる子どもを育てていきたいと思っています。

9月に入ってからいくつかの地域祭りが予定されています。夏休み前にお配りした一覧に載っていますのでお時間のある方はぜひご参加ください。祭りを楽しみ、盛り上げることで地域の繋がりに積極的に関わっていきましょう。